鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和7年6月20日(金)感染症対策センター (衛生環境研究所)

令和7年第18週から第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(急性呼吸器感染症(ARI)定点の急性呼吸器感染症を除く。)

今回(18週~22週)5週 (R7.4.28 ~ R7.6.1) 1感染性胃腸炎 (627)[↓140] 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (367)[↑ 52] 3 インフルエンザ (156)[↓ 38]
1 感染性胃腸炎 (627) [↓140] 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (367) [↑ 52]
2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (367)[↑ 52]
9 インフルエンザ (156)[20]
3/1 2 7 /V -
4 新型コロナウイルス感染症(125)[↓148]
5 伝染性紅斑 (99)[↑ 8]
6その他 (187)[↓ 23]
(合計 1,561)

前回(13 週~17 週)	5週
$(R7.3.24 \sim R7.4.$	27)
1 感染性胃腸炎	(767)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(315)
3新型コロナウイルス感染症	(273)
4インフルエンザ	(194)
5 伝染性紅斑	(91)
6その他	(210)
(合計)	1,850)

3 A群溶血性レクサ球菌咽頭炎 (382)4 インフルエンザ (127)5 RS ウイルス感染症 (59)6 その他 (123)		
1 感染性胃腸炎(680)2 新型コロナウイルス感染症(595)3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(382)4 インフルエンザ(127)5 RS ウイルス感染症(59)6 その他(123)	前々回(8週~12週)	5 週
2新型コロナウイルス感染症(595)3A群溶血性レクサ球菌咽頭炎(382)4インフルエンザ(127)5RS ウイルス感染症(59)6その他(123)	$(R7.2.17 \sim R7.3.$	23)
3 A群溶血性レクサ球菌咽頭炎 (382)4 インフルエンザ (127)5 RS ウイルス感染症 (59)6 その他 (123)	1 感染性胃腸炎	(680)
4インフルエンザ(127)5 RS ウイルス感染症(59)6 その他(123)	2新型コロナウイルス感染症	(595)
5 RS ウイルス感染症(59)6 その他(123)	3 A群溶血性レンナ球菌咽頭炎	(382)
6その他 (123)	4インフルエンザ	(127)
	5RS ウイルス感染症	(59)
(合計 1 966)	6その他	(123)
(Дрг 1, 500)	(合計	1,966)

※急性呼吸器感染症(ARI)定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数である。 ※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減(急性呼吸器感染症(ARI)定点の急性呼吸器感染症を除く。)

増加した疾病	
咽頭結膜熱	30%
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17%
伝染性紅斑	9%

減少した疾病	
RS ウイルス感染症	55%
新型コロナウイルス感染症	54%
インフルエンザ	20%
感染性胃腸炎	18%
水痘	15%

3 急性呼吸器感染症(ARI)報告数

第18週から第22週の患者報告数は、8,280件であった。

<急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスとは>

咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例に一致する患者数の発生を把握する症候群サーベイランスです。 なお、急性呼吸器感染症(ARI)の症例定義を満たし、さらに下記の定点把握対象感染症で診断された場合、両方に報告されます。

平時より、①流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、②未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知する体制の整備、③国内の急性呼吸器感染症の発生状況について、国民や医療関係者の皆様へ情報が共有できる体制を整備するために、急性呼吸器感染症を5類感染症に位置づけされました。

4 コメント

【伝染性紅斑】

<u>県内全域に警報を発令しています。</u>飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

【百日咳】

小中学生を中心に患者報告が続いており、感染者数が増加しています。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は 4~12 年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

一定数の患者報告が続いているため、引き続き手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。 また、まれに A、B、G 群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合があるため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【感染性胃腸炎】

<u>ノロウイルス等による感染者数が多い状況であり、注意が必要です。</u>原因となるウイルスはアルコールが効きにくいため、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。感染した人の便や吐物を処理する場合には、ゴム手袋やマスクを着用し、処理後の床や感染した人が触れた物などは、塩素系の消毒剤を使用して消毒しましょう。

【ダニ媒介感染症】

5月に入り、ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)と日本紅斑熱の患者が報告されているため、注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

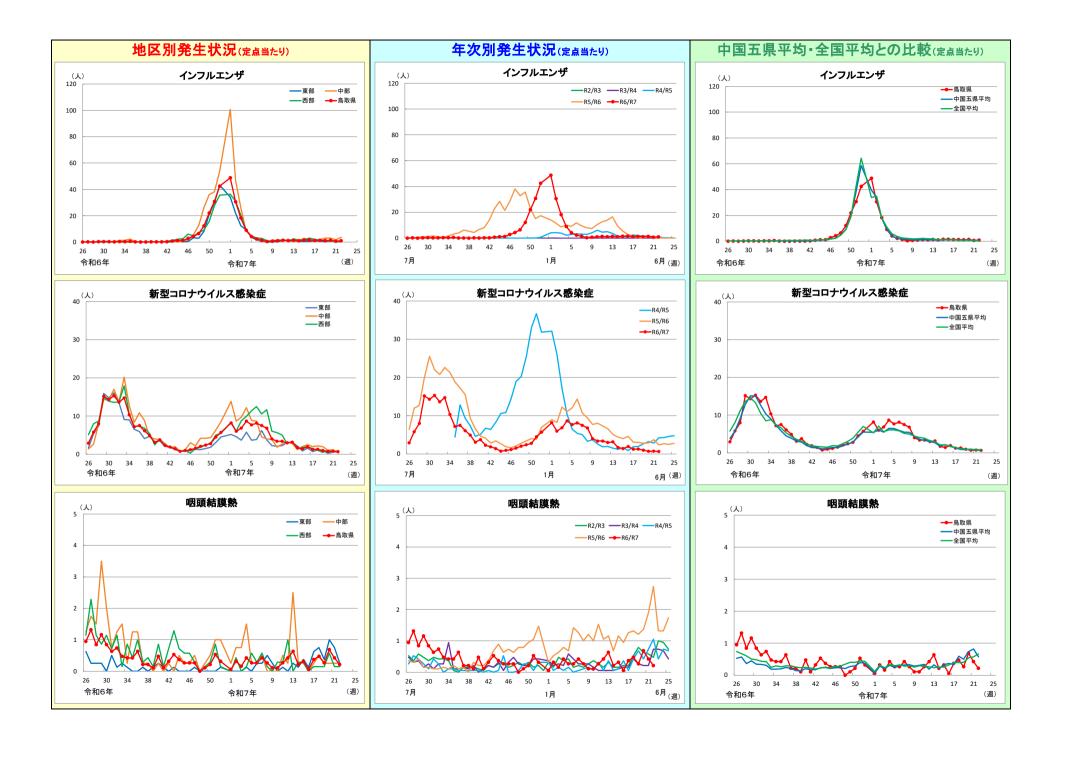
【梅毒】

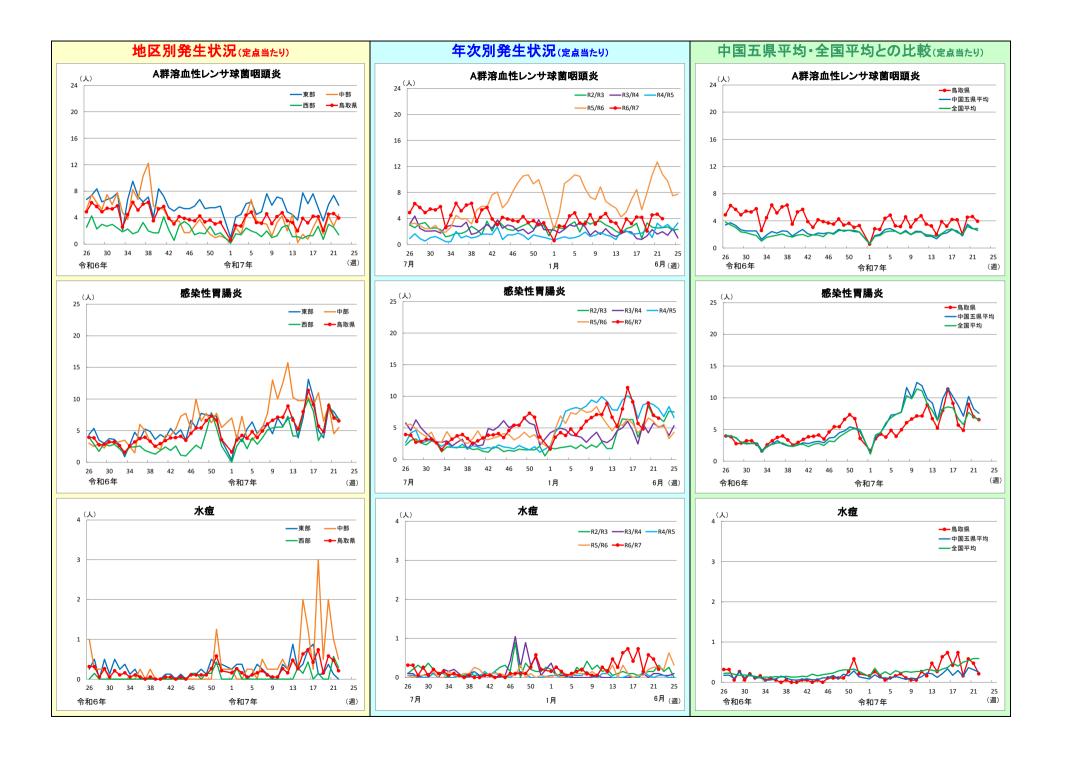
令和6年は過去最多の41件、令和7年は5月までに16件の感染が報告されており、引き続き注意 が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につな がります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

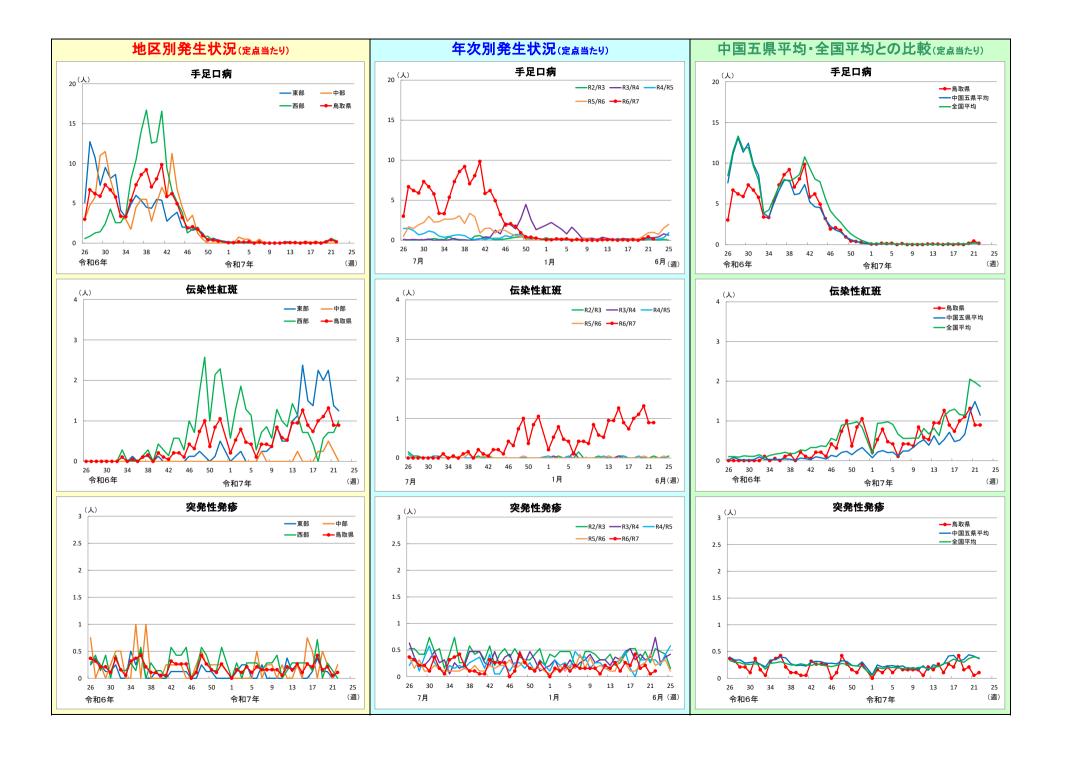
令和7年第18週~第22週の報告患者数

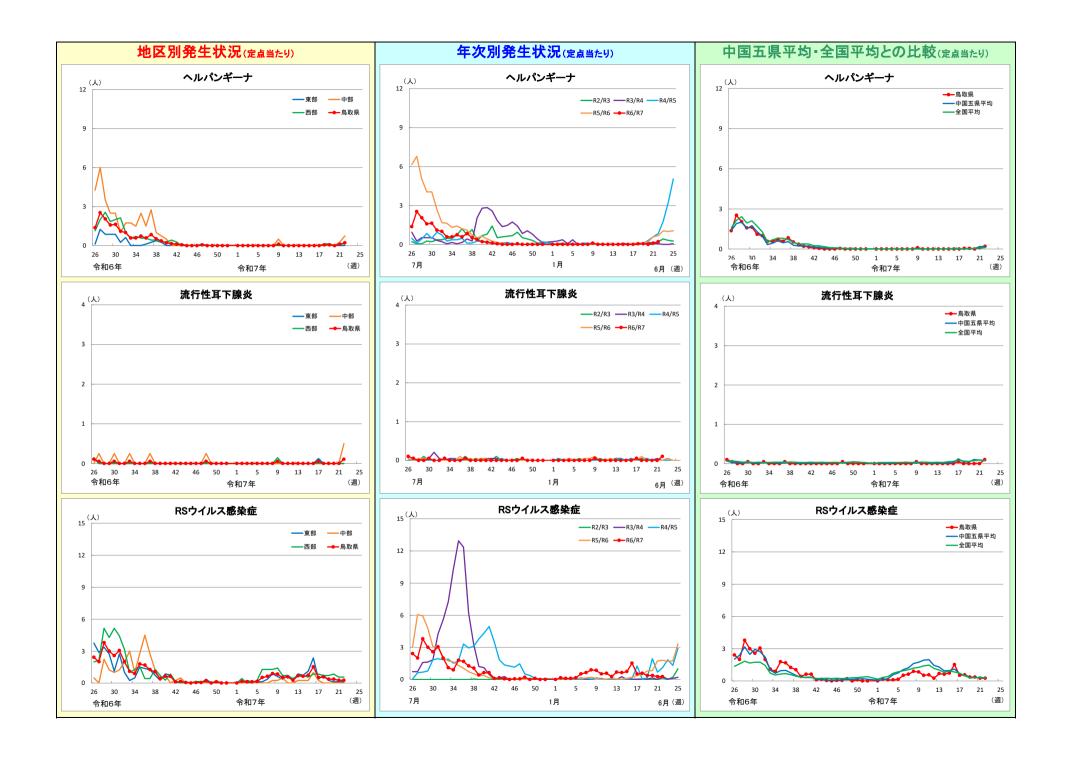
令和7年6月5日 作成 前回報告患者数 前々回報告患者数 令和7年 今回報告患者数 区 前回比 分 第18週~第22週(5週分) 第13週~第17週(5週分) 第8週~第12週(5週分) 患者数 東部 中部 西部 東部 中部 西部 東部 中部 西部 計 計 増 減 累計 増減 急性呼吸器感染症(ARI)定点数 (12) (29) (12) (29) (12) (29) 1 インフルエンザ 29 79 48 156 -38 37 38 119 194 31 34 62 127 -20% 3,796 2 新型コロナウイルス感染症 -54% 2,526 40 44 125 110 273 161 341 595 小児科定点数 (8) (4) (7) (19) (8) (4) (7) (19) (8) (4) (7) (19) 3 咽頭結膜熱 30% 25 6 8 39 12 13 5 30 3 12 22 127 4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 68 367 237 315 382 17% 1,478 226 73 52 38 40 259 55 68 5 感染性胃腸炎 258 146 223 627 -140331 196 240 767 241 236 203 680 -18%2,585 122 6 水痘 6 28 7 41 25 17 6 48 6 6 0 12 -15% 7 手足口病 12 3 0 0 400% 31 1 15 1 1 8 伝染性紅斑 298 5 99 59 91 20 n 52 73 21 8 31 32 9% 9 突発性発疹 6 4 8 18 4 6 9 19 3 3 8 14 -5% 69 10 ヘルパンギーナ 0 0 0 0 2 0 10 11 流行性耳下腺炎 0 0 2 0 0 0 0 100% 4 12 RSウイルス感染症 11 0 24 35 -43 44 8 26 78 23 32 59 -55% 204 眼科定点数 (2) (1) (2) (5) (2) (1) (2) (5) (1) (2) (5) 13 急性出血性結膜炎 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 14 流行性角結膜炎 0 -10 13 -63% 27 基幹定点数 (2) (2) (1) (2) (5) (2) (1) (2) (5) (1) (2) (5) 15 細菌性髄膜炎 3 0 0 0 0 0 0 0 0 1 16 無菌性髄膜炎 8 n n 1 0 2 2 n 0 -50% 17 マイコプラズマ肺炎 6 8 3 17 9 4 2 2 8 10 2 13 113% 62 0 0 0 0 0 19 感染性胃腸炎 3 0 0 -20% 11 であるものに限る。) 中部の基幹定点は小児科定点と共通のため、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)の件数は感染性胃腸炎の内数となり 急性呼吸器感染症(ARI)定点数 (12) (6) (11) (29) (12) (6) (11) (29) (12) (6) (11) (29) 20 急性呼吸器感染症(ARI) 13,370 3,445 1,879 2,956 8.280 3,190 2.365 996 1,729 5.090 63% ※调報第15调から第17调の報告(3调分) 4,143 | 2,270 | 3,428 | 9,841 | 2,901 | 3,236 | 1,382 | 2,322 | 6,940 | 439 762 1,966 24,732

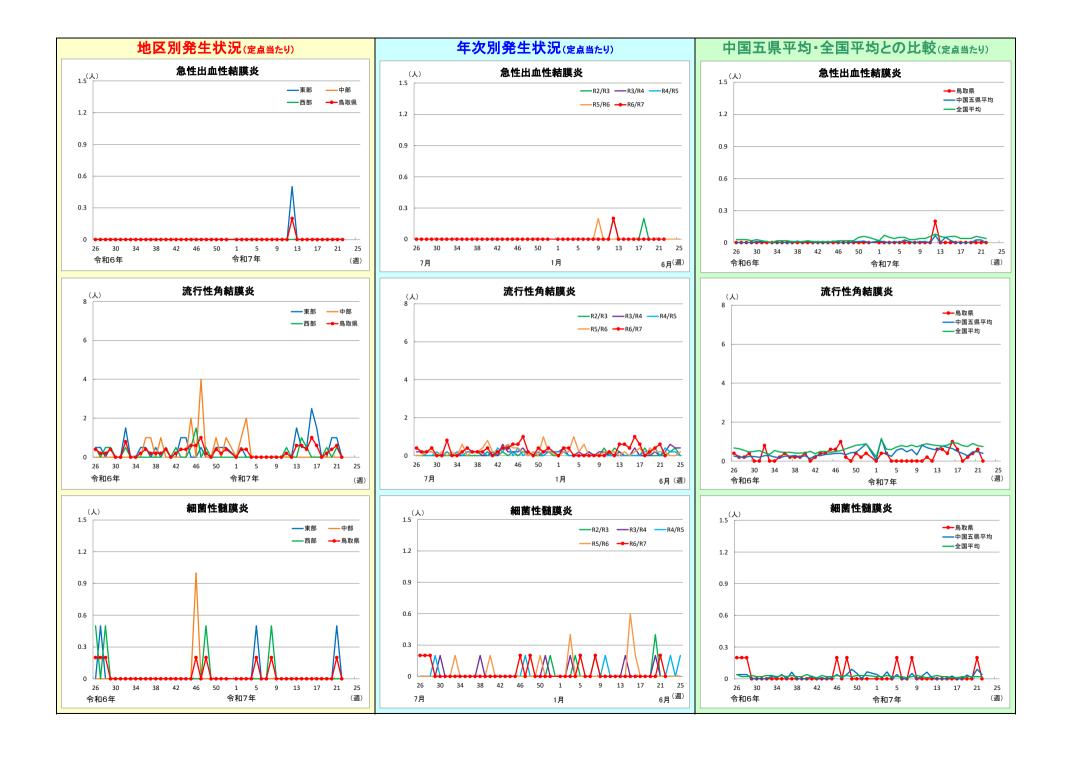
※令和7年4月7日から急性呼吸器感染症(ARI)が追加され、「インフルエンザ/COVID-19定点」は「急性呼吸器感染症(ARI)定点」に変更されました

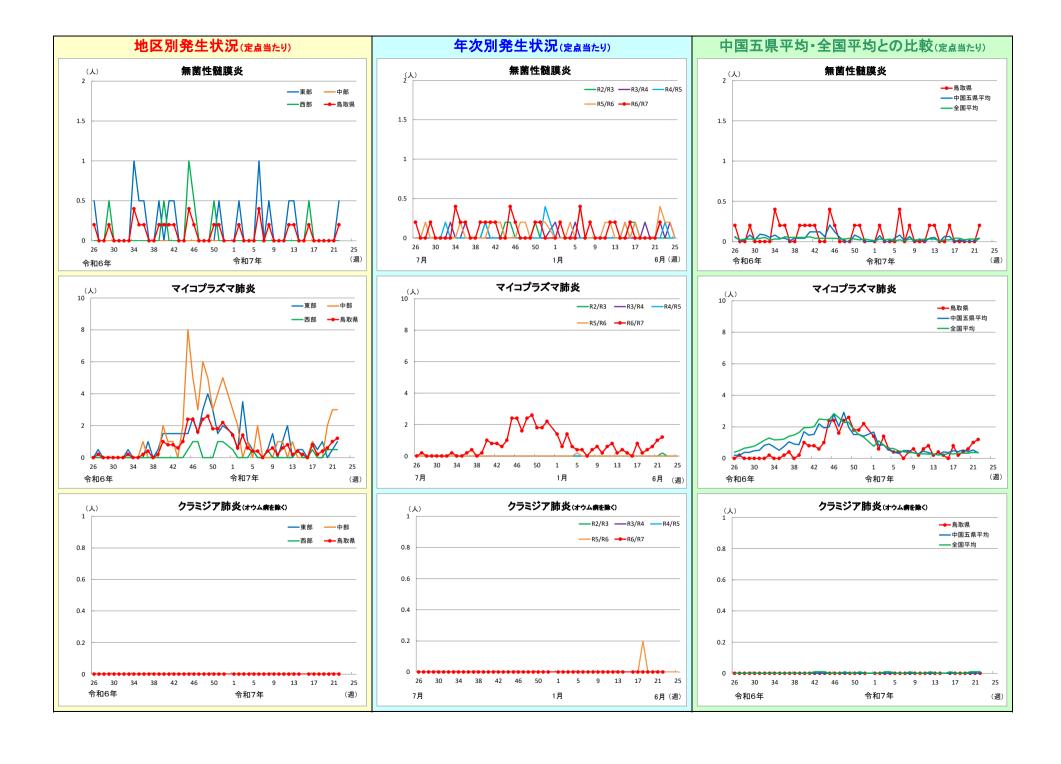














注)新型コロナウイルス感染症は、令和5年第18週(5/1~5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数を元に算出。

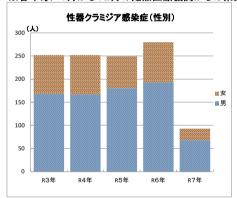
令和6年

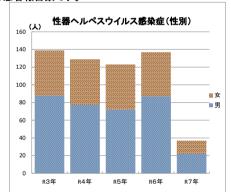
定点	疾 病 名		1月			2月			3月	1		4)	Ħ		5	月		-	6月			7月		8	月		9)	月		10	月		11月			12月			1~12月計	t	対能	前年累計比	上率
数		男	女	計	男	女	計	ቓ	4 女	計	男	4	. 1	†	男 :	女 [it i	男	女	計	男	女	計	月 3	女 ፤	H !	男 女	₹ ∄	† 5	男 女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
S	性器クラミジア感染症	9	6	15	10	11	2	1 2	27 1	0 3	7 1	4	8	22	16	5	21	16	5	21	21	12	33	27	5	32	15	5 2	20	10 1	0 20	16	7	23	12	3	15	193	87	280	107%	128%	112%
Т	性器ヘルペスウイルス感染症	7	6	13	5	2	: 7	7 1	0	4 1	4	6	3	9	7	3	10	6	6	12	7	3	10	15	7	22	7	4 1	11	8	7 1	5 3	2	5	6	3	9	87	50	137	121%	98%	111%
D	尖圭コンジローマ	7	0	7	5	2	1 7	7	2	1	3	2	3	5	3	1	4	3	2	5	2	0	2	2	0	2	6	0	6	2	2 4	4 C	1	1	5	0	5	39	12	51	105%	75%	96%
7	淋菌感染症	5	3	8	11	3	1/	4	2	1	3	8	1	9	7	2	9	7	0	7	8	1	9	5	2	7	3	0	3	1	1 2	2 1	1	2	3	1	4	61	16	77	100%	94%	99%
基	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	1	8	4	- 2	: F	ò	8	6 1	4 1	0	2	12	4	3	7	4	4	8	4	3	7	2	1	3	4	2	6	8	1 9	9 9	4	13	4	6	10	68	35	103	103%	83%	95%
幹	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0) (J	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0 2	2 0	0	0	1	0	1	8	0	8	133%	0%	80%
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0) (J	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 () (0	0	0	0	0	1	0	1	100%		100%

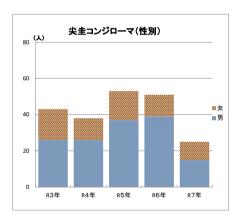
令和7年

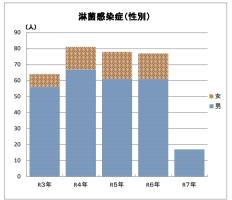
定点	疾病名		1月			2月			3月			4月			5)	1		6)	₹		7	7月		8 <i>F</i>	1		9月		10	月		11 J	1		12月			5月計		対前年	∓5月末累	計比率
数		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	: H	ト 男	多		† !	男 :	女 計	男	女	計	男	女	計	男 3	て 計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
S	性器クラミジア感染症	9	3	12	15	4	19	13	3 6	19	10) (19	2	1	3 2	24																				68	25	93	899	63%	809
Т	性器ヘルペスウイルス感染症	7	4	11	3	2	5	2	2 4	. 6	3	3 4	1 7	7	7	1	8																				22	15	37	639	83%	709
D	尖圭コンジローマ	0	1	1	3	1	4	4	1 4	. 8	3 5	5 3	3 8	3	3	1	4																				15	10	25	799	143%	969
7	淋菌感染症	3	0	3	4	0	4	5	5 0	5	5 2	2 () 2	2	3	0	3																				17	0	17	529	6 0%	409
基	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	2	7	9	5	14	5	5 5	10) (5 5	5 11		3	2	5																				28	19	47	859	136%	1009
幹	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	1	1	0	- 1	1	1	2	2 () () ()	0	0	0																				3	1	4	3009	6 -	4009
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	(0 (() () () ()	0	0	0																				0	0	C	09	6 -	09

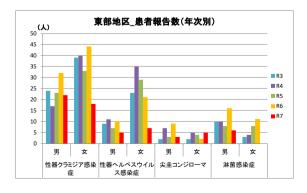
※各年毎に1月から12月の定点医療機関からの累計患者報告数です。

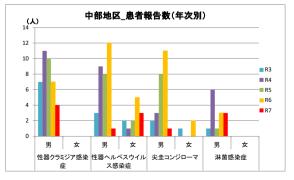


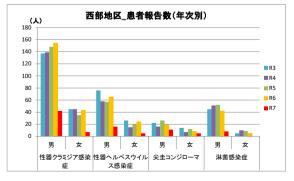




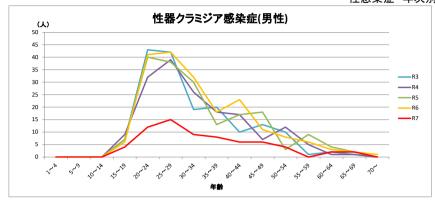


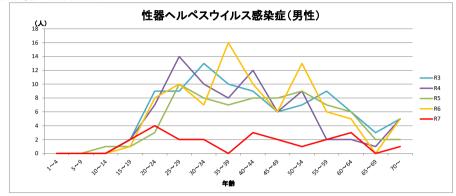


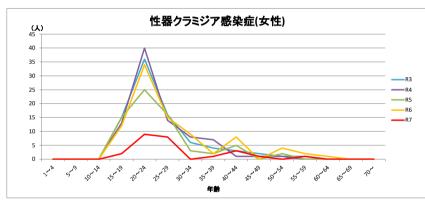


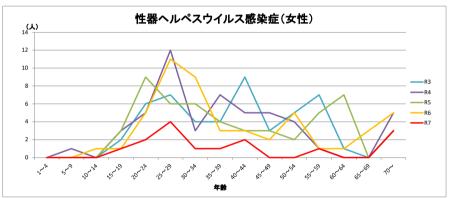


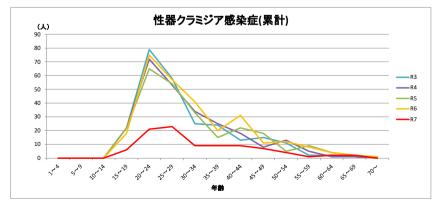
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ

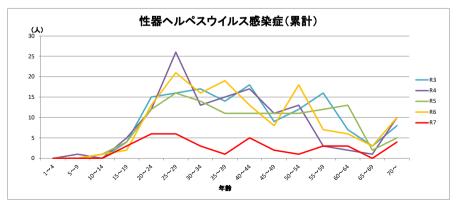




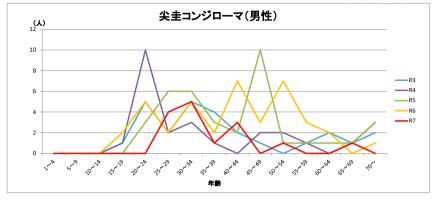


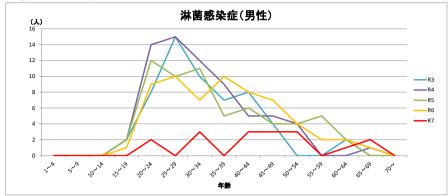


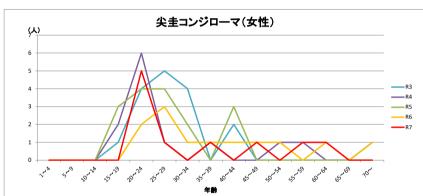


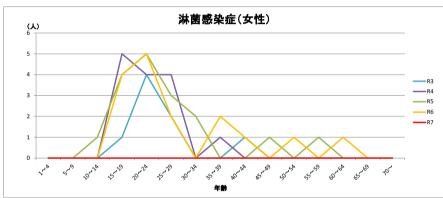


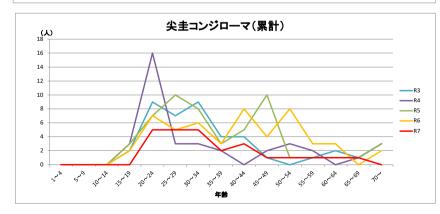
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ

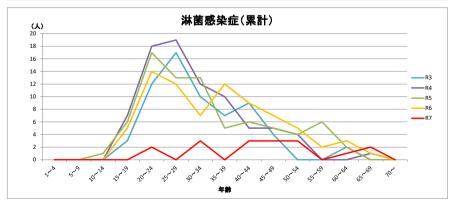


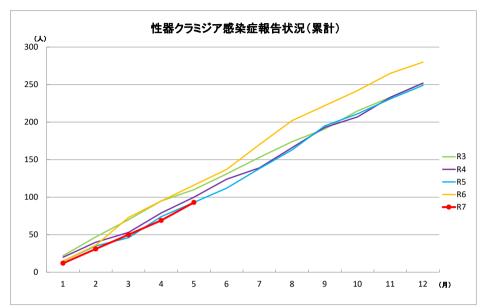


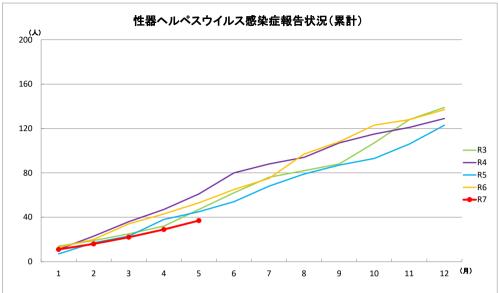


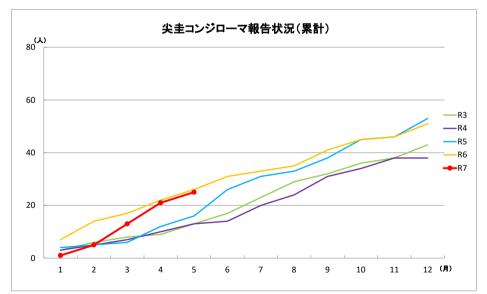


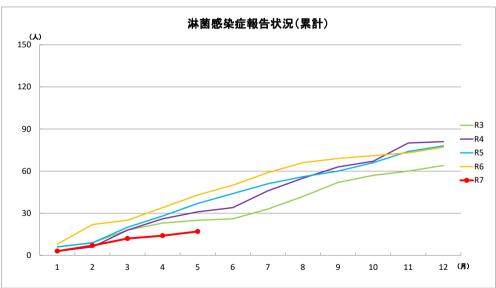


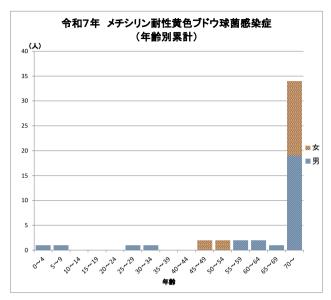


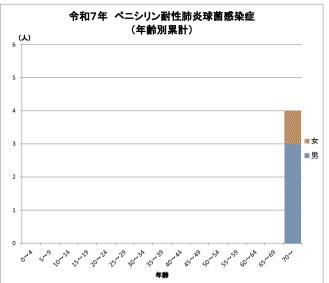


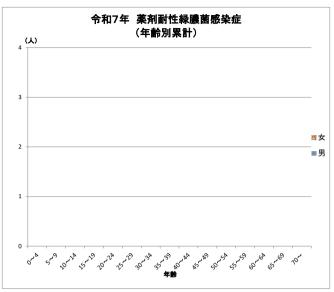


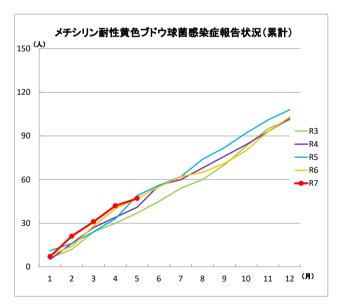


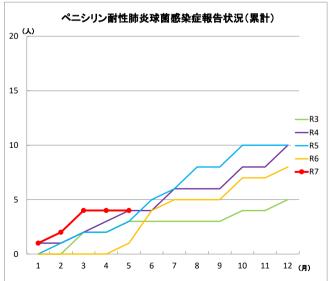


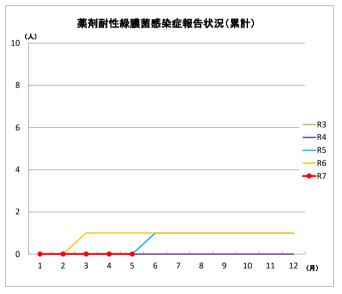












鳥取県における感染症発生状況(全数報告分・令和7年)

令和7年5月31日 現在 ※()は前年数値

(1)2類感染症

疾病名	-	月	2	н	2	月	4	н	5	н	6	н	7	н	8	н	9	e I	10	ь	11	н	10	2月		計	
75 7N 13	-	<u>л</u>	_		כ		†		ז	7	0	7	,	7	0	7	9.	7	10	7		7	12	-7	5月8	寺点	年間
急性灰白髄炎						ļ																			0	(0)	(0)
結核	3	(3)	3	(2)	3	(5)	4	(6)	6	(3)		(6)		(1)		(7)		(5)		(2)		(5)		(5)	19	(19)	(50)
潜在性結核 ※再掲		(1)		[(2)	1	(2)		(1)		(2)		(1)								(3)		(1)	1	(6)	(13)
疑似症患者 ※再掲		[[[0	(0)	(0)
ジフテリア																									0	(0)	(0)
重症急性呼吸器症候群																									0	(0)	(0)
中東呼吸器症候群																									0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H5N1)																									0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H7N9)																									0	(0)	(0)

(2)3類感染症

疾病名	1	月	2	П	3	н	4.	П	5	П	6	П	7	月	8	П	9	П	10	п	11	月	10	2月		計	
次 NA 石		л		л	5	л	+	л	5	7	U,	л	,	л	0	л	9.	7	10	תי	' '	л	12	-7	5月日		年間
コレラ														İ											0	(0)	(0)
疑似症 ※再掲														[0	(0)	(0)
細菌性赤痢																									0	(0)	(0)
腸管出血性大腸菌感染症				(1)		(1)				(5)		(2)		(1)		(3)		(1)		(3)		(3)		(1)	0	(7)	(21)
腸チフス																									0	(0)	(0)
パラチフス																									0	(0)	(0)

(3)4類感染症

(-) - >ACAD->F-XIII															
疾 病 名	1月		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
// /A -1	17.	<u> </u>	271	071	771	0/1	071	, ,,	0/1	371	1071	1 1 7 3	1271	5月時点	年間
マラリア														0 (0)	(0)
E型肝炎														0 (0)	(0)
A型肝炎			!							(1))		(1)	0 (0)	(2)
つつが虫病	1		İ									(1)		1 (0)	(1)
日本紅斑熱						1 (1)		(1)	(2) (2)	(2)			1 (1)	(8)
重症熱性血小板減少症候群						1	(1)			(1))			1 (0)	(2)
レジオネラ症	1		2	1	1	3 (2)	(1)	(1)		(1)	(1)	(2)	(1)	8 (2)	(9)
レプトスピラ症			ļ						i i					0 (0)	(0)
デング熱			İ											0 (0)	(0)
チクングニア熱														0 (0)	(0)

(4)5類感染症

(4)5類懸染症																											
疾 病 名	1.	月	2	月	3	月	4	月	5	月	6.	月	7	月	8	月	9	月	10)月	11	月	12	月	5月8	<u>計</u> 寺占	年間
アメーバ赤痢								(1)						(1)						(1)		(2)	I		0	(1)	(5)
ウイルス性肝炎(E型・A型肝 炎を除く)			1															(1)							1	(0)	(1)
急性弛緩性麻痺(急性灰白 髄炎を除く)																									0	(0)	(0)
急性脳炎(ウエストナイル脳 炎及び日本脳炎等を除く)	1	(1)	1		1			(1)												(1)				(3)	3	(2)	(6)
クリプトスポリジウム症																									0	(0)	(0)
クロイツフェルト・ヤコブ病						(1)																			0	(1)	(1)
劇症型溶血性レンサ球菌感 染症	1	(3)			1			(2)	1	(1)						(1)				(3)		(1)			3	(6)	(11)
後天性免疫不全症候群																		(1)							0	(0)	(1)
無症候性キャリア ※再掲																									0	(0)	(0)
AIDS ※再掲																		(1)							0	(0)	(1)
侵襲性インフルエンザ菌感 染症						(1)			1			(1)										(1)			1	(1)	(3)
侵襲性髄膜炎菌感染症																									0	(0)	(0)
侵襲性肺炎球菌感染症	5	(1)	1		1	(2)		(3)	3	(3)						(1)				(1)		(1)	į	(1)	10	(9)	(13)
水痘(入院例に限る。)										(1)				(1)											0	(1)	(2)
梅毒	9	(2)	2	(5)	2	(1)	3	(2)		(2)		(5)		(7)		(6)		(2)		(5)		(2)		(2)	16	(12)	(41)
播種性クリプトコックス症	1		1		1			(1)																	3	(1)	(1)
破傷風																(1)									0	(0)	(1)
薬剤耐性アシネトバクター感 染症																									0	(0)	(0)
カルバペネム耐性腸内細菌 目細菌感染症								(1)		(2)								(1)							0	(3)	(4)
ジアルジア症																									0	(0)	(0)
百日咳	28	(5)	44	(6)	74	(2)	120	(1)	98	(1)		(7)		(37)		(55)		(54)		(113)		(59)	((43)	364	(15)	(383)
麻しん									1																1	(0)	(0)
風しん																									0	(0)	(0)

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

① 月別件数

区分	1	月	2	日	3	日	4	月	5	日	6	B	7	月	8	В	9	B	10)日	11	月	12	9日		Ī		
E 73		,,	_	, ,	Ŭ	,,	-	,,	Ů	,,	Ů	,,	,	,,		,,		, ,		,,,		,,,	' -	- / ,	5月日	<u> </u>	年	間
令和7年																									0	(0)	0	(0)
令和6年		<u> </u>	1		1				5	(2)	2	(1)	1	(1)	3		1	(1)	3	(1)	3		1		7	(2)	21	(6)
令和5年											1				5		9	(3)	2	(2)			2	(1)	0	(0)	19	(6)
令和4年		<u> </u>	2	(2)							1	<u> </u>	2		3						3	(1)	3		2	(2)	14	(3)
令和3年	1				3	(2)	1	(1)	2	(1)	2	(1)	1	(1)											7	(4)	10	(6)
令和2年					1				2	(1)	7	(1)	2		3	(2)	7	(4)	3	(1)			1		3	(1)	26	(9)
令和元年			1		1	(1)			6	(1)	1	<u> </u>	2				4	(1)	3	(2)	4		2	(2)	8	(2)	24	(7)
平成30年									3		1		4	(2)	9		4		1						3	(0)	22	(2)
平成29年	1	(1)					1		1	(1)	7	(3)	5	(2)	1						4	(3)	1	(1)	3	(2)	21	(11)
平成28年											5	(4)	3	(1)	6	(1)	1						1	(1)	0	(0)	16	(7)

② 血清型別件数

© #//1 2/11 20																										
区分	0	8	O26		O29		O55		O103		0111		O125		O128		O145		O146		O157		型不明		計	
令和7年																									0	(0)
令和6年			1				2	(2)			2								1	(1)	13	(1)	2	(2)	21	(6)
令和5年			1	(1)																	17	(4)	1	(1)	19	(6)
令和4年									3										2	(2)	8		1	(1)	14	(3)
令和3年									4	(2)									1	(1)	3	(1)	2	(2)	10	(6)
令和2年	1		4	(2)	1				4	(2)	3	(1)	1	(1)	1				1	(1)	7		3	(2)	26	(9)
令和元年									3	(1)	4	(1)									15	(3)	2	(2)	24	(7)
平成30年			2						3								1				16	(2)			22	(2)
平成29年			1						2	(1)	4	(3)							1	(1)	10	(3)	3	(3)	21	(11)
平成28年			1	(1)																	14	(5)	1	(1)	16	(7)

③ 年齢別件数

区分	~4	1歳	5~ 9歳		10~ 14歳		15~ 19歳		20~ 29歳		30~ 39歳		40~ 49歳		50~ 59歳		60~ 69歳		70~ 79歳		80歳 以上		計	-
令和7年																							0	(0)
令和6年	3		3		1		3	(2)	5	(1)			2	(1)	1	(1)	2	(1)	1				21	(6)
令和5年	1		2	(1)	1	<u> </u>	1		4	(1)	2	(1)	4	(3)	2					<u> </u>	2	<u> </u>	19	(6)
令和4年	5		1		2		1		1		2	(1)							2	(2)			14	(3)
令和3年	1				1	(1)			1	(1)					1	(1)	1	(1)	3	(2)	2		10	(6)
令和2年	7		2		2	 - -	2		1	(1)	4	(4)	3	(1)	3	(3)				 - -	2	 - -	26	(9)
令和元年	9	(2)	2			i ! !		<u> </u>	4	(3)	2				1	(1)	3	(1)	3	i ! !		i ! !	24	(7)
平成30年	2		2			! ! !			10	(1)	3	(1)	1		2		1			! ! !	1	! ! !	22	(2)
平成29年	3	(1)	1		2	(1)	2	(1)			2	(2)	2	(2)	4	(3)	4	(1)		 	1	 	21	(11)
平成28年	4		4	(3)		i	1		2	(1)	3	(2)	1	(1)						i	1	i	16	(7)

④ 地区別件数

区 分	東部	地区	中部	地区	西部	地区	Ē	t
令和7年							0	(0)
令和6年	2	(1)	6		13	(5)	21	(6)
令和5年	3	(1)	7	(1)	9	(4)	19	(6)
令和4年	5	(1)	6		3	(2)	14	(3)
令和3年	4	(2)	3	(2)	3	(2)	10	(6)
令和2年	3		15	(5)	8	(4)	26	(9)
令和元年	6	(2)	14	(3)	4	(1)	24	(6)
平成30年	7		5		10	(2)	22	(2)
平成29年	1		8	(4)	12	(7)	21	(11)
平成28年	2	(1)	12	(5)	2	(1)	16	(7)

鳥取県病原微生物検出情報

(令和7年5月検出分 検体採取 令和7年4月及び5月)

令和7年6月13日 鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体 77 件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象 (ウイルス)

ライノ、ヒトメタニューモ、インフルエンザ-A 型及び B 型、パラインフルエンザ 1-4、RS-A 型及び B 型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナ NL63(※)

検査対象 (細菌)

百日咳菌、Bordetella holmesii、B. parapertussis (※)、マイコプラズマ (※) ※印は5月21日搬入検体分より実施。

検出結果

77 件中 66 検体 (85%) から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ:33 件、ヒトメタニューモ:6 件、インフルエンザ B型:3 件、パラインフルエンザ 3:6 件、パラインフルエンザ 4:3 件、RS-A型:1 件、RS-B型:6 件、ボカ:11 件、SARS-CoV-2:6 件、アデノ:4 件、コロナ NL63:1 件であった。4 月検出分と合わせた年齢別検出数は表1のとおり。(ただし、検出件数は重複検出を含む。)

表 1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数(令和7年4月~5月検出分)

			4	宇齢別検	出数(() は標:	本数を示っ	t		
病原体	0-4	5-9	10-19	20-39	40-59	60-69	70-79	80-89	90-99	合計
	(49)	(9)	(4)	(8)	(17)	(7)	(5)	(3)	(2)	(104)
ライノ	27	4	2	3	4	2	1	1		44
ヒトメタニューモ	6				1	3	2			12
インフルエンザ B 型			2		1					3
パラインフルエンザ 3	5				1					6
パラインフルエンザ 4	4									4
RS-A					1					1
RS-B	8	1							1	10
ボカ	14						1			15
SARS-CoV-2	2	1		2	1			1		7
アデノ	4									4
コロナ NL63	1									1
百日咳		1								1
検出せず	5	3	1	4	9	2	2	1	1	28

アデノは 5 型が 1 件、C 種 2 件、型不明が 1 件であった。アデノ C 種は急性呼吸器感染症の原因となるウイルスであり、5 型も C 種の 1 つである。昨年同時期に流行した咽頭結膜熱の原因ウイルスであるアデノ B 種(3 型など)は、検出されなかった。

インフルエンザB型は3件すべてビクトリア系統であった。

SARS-CoV-2 の系統は表 2 に示すとおり、LP. 8.1 が 1 件、NB. 1. 8.1 が 1 件、XEC 系統が 2 件、系統不明が 2 件であった。LP. 8.1、NB. 1. 8.1、XEC 系統は、いずれも WHO の指定する監視下の変異株であり、NB. 1. 8.1 は、2025 年 2 月以降東南アジアで増加している系統で、今後の動向に留意が必要である。

表 2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果(令和7年5月検出分)

検体採取年月日	年齢	型別
R7. 4. 18	33	XEC. 6
R7. 4. 21	80	LP. 8. 1
R7. 4. 28	45	不明
R7. 5. 5	1	不明
R7. 5. 13	1	NB. 1. 8. 1
R7. 5. 19	45	XEC. 4

【参考】

行政検査で実施した1か月小児の百日咳菌の検査で、百日咳菌のマクロライド耐性遺伝子 が検出された。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 14 件について検査を行ったところ、8 件からノロウイルスが検出された。ノロウイルスの 8 件はすべて G_2 で G_2 で G_3 G_4 #### 3 A 群溶連菌感染症

臨床診断名が A 群溶連菌感染症の 5 件について検査を行ったところ、A 群溶連菌 3 件が分離され T1型1件とT型別不明 2 件であった。

※T 型別:細菌表面にある T タンパク抗原を血清凝集反応によって型別したもの。病原性タンパクをコードする emm 型遺伝子型と密接な関係がある。T 型別の方が試験が簡易なことから型別によく使用されている。T1 型は emm1 型であることが多く、emm1 型は、劇症型溶連菌で最も多い型である。

4 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の2件について検査を行ったところ、RSウイルスB型が1件検出された。

5 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の1件について検査を行ったところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

6 ロタウイルス感染性胃腸炎

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の1件について検査を行ったところ、A及びC群ロタ、 ノロ、サポ、アストロ、アデノのいずれのウイルスも検出されなかった。

月別ウイルス等分離・検出状況(令和6年4月~令和7年5月)

	分離月						4	}和6	年					1						4	令和7	7年					
ウイ	レスの種類	1月	2月	3月	4月	5月				9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	_	_	_	9月	10月	11月	12月	計
	エンテロウイルス 型不明				1				1		2	1	1	6	1												1
	コクサッキーA 2型													0													0
	コクサッキーA 4型													0													0
	コクサッキーA 5型						1							1													0
	コクサッキーA 6型							1						1													0
	コクサッキーA 9型													0													0
	コクサッキーA 10型													0													0
ェン	コクサッキーA 16型									2	2	2		6													0
テ	コクサッキーB 5型													0													0
	エコー 3型													0													0
	エコー 5型													0													0
	エコー 6型													0													0
	エコー 11型											1	1	2													0
														0													0
	エンテロウイルス A71型													0													0
	その他のエンテロウイルス									1				1													0
	ライノ													0				25	19								44
	プログログログ インフルエンザAH3型													0			1										1
1													_		_										-		
ンフ	インフルエンザA(H1N1)pdm09									1		4	9	14	7	3	1										11
ルエ	インフルエンザB型系統不明													0													0
ンザ	インフルエンザB型ビクトリア系統				3	L					_			3				1	2		L	L			L		3
7	インフルエンザB型山形系統													0													0
	パラインフルエンザ													0				3	7								10
	ムンプス													0				_									0
_	RS-A													0				1									1
R	RS-B													0				8	4								12
																		0	4								
	A群ロタ C群ロタ													0													0
	C群ロタ				4	4				4			0	0	4				4								
	アストロ				1	1				1			2	5	1				1								2
ر ا	ノロ G I 型													0				_	_								0
Ľ	ノロ GI型				1			1						2		_	4	4	5								13
+	サポー型不明											1		1		2	3	2				-			-		7
ポ	サポ G I 型													0													0
	サポ GV型													0													0
	アデノ型不明				1				1	1	1		3	7			1	2	3								6
	アデノ 1型													0													0
	アデノ 2型													0													0
	アデノ 3型							1						1													0
	アデノ 4型													0	1												1
ァ	アデノ 5型													0					1								1
デ	アデノ 7型													0							L				L		0
/	アデノ 8型									2		1		3	1						L				L		1
	アデノ 37型						1							1				1									1
	アデノ 40/41型													0							L				L		0
	アデノ 54型													0													0
	アデノ 56型													0													0
	アデノ 64型													0													0
	ヘルペス 3													0				1									1
^	ヘルペス 4													0													0
ル	ヘルペス 5													0													0
ペス	ヘルペス 6													0													0
	ヘルペス 7									1				1													0
	パルボウイルスB19													0													0
	A群レンサ球菌									1				1				1	3								4
	黄色ブドウ球菌													0				•	- 0								0
	B 群レンサ球菌													0			2										2
	ヒトメタニューモ																										12
														0				12	0						-		
	ボカ													0				7									15
	SARS-CoV-2													0				4	_								7
	HCoV-NL63																		1			-			-		1
	百日咳													0				1									1
	セレウス菌													0													0
					7	1	2	3	2	10	5	10	16	56	11	5	12	73	57	٥	0) (0	0	0	0	120